ニュースリリース

日本政策金融公庫

２０２６年１０月２９日
株式会社日本政策金融公庫

第230回　信用保証利用企業動向調査結果の概要

（2026年７～９月期実績、2026年10～12月期見通し）

［概況］ 信用保証利用企業の資金繰りは、やや改善している。

～景況は、一部に弱い動きが見られるものの、持ち直しの動き。先行きについては慎重な見方～

（　）は前期値

【金融関連】○　資金繰りD.I.は、▲12.3（▲14.0）とマイナス幅がやや縮小した。
○　借入難易感D.I.は、▲6.4（▲7.2）と横ばいとなった。
○　今期に借入を実施した企業の割合は、従業員規模「0-20人」及び「21人以上」ともに、やや増加した。

【保証利用】○　今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、大幅に増加した。
○　来期（2026年10～12月）における保証利用要請D.I.は、1.6（1.9）と横ばいとなった。
※　保証利用要請D.I.　・・・金融機関による保証利用要請が「強くなると思う」企業の割合－「弱くなると思う」企業の割合。

【生産等】　○　生産・売上D.I.は、▲6.0（▲7.0）とマイナス幅がやや縮小した。
○　採算D.I.は、▲12.1（▲16.3）とマイナス幅がやや縮小した。

【特別調査】「経営環境において直面している課題及び信用保証制度の活用状況等について」
○　経営環境において直面している課題については、「人手不足、人件費上昇」が60.2%と最も多くなっている。
○　信用保証制度に関する情報の入手先については、「金融機関」が83.6%と最も多く、保証付き融資を利用した機会については、「業績悪化したとき・資金繰りが厳しくなったとき」が49.1%と最も多くなっている。
○　保証付き融資利用時に重視する点については、「迅速な借入ができる」が44.1%と最も多く、次いで「低金利での借入ができる」が42.0%、「長期の借入ができる」が39.8%となっている。
○　今後利用を検討したい制度融資については、「経営改善、経営安定（資金繰り支援等）」が53.1%と最も多く、次いで「設備投資」が43.3%となっている。

＜調査の要領＞

調査時点	2026年9月中旬
調査方法	郵送またはWebによるアンケート調査
調査対象	9地域（北海道、宮城、東京、愛知、石川、大阪、広島、香川、福岡）の信用保証協会利用先 16,000企業を対象としており、**回答企業の約84%が従業員20人以下の小規模企業**となっています。
有効回答企業数	4,048企業（回答率 25.3%）

＜お問い合わせ先＞
日本政策金融公庫　中小企業事業本部　保険企画部　保険情報室　Tel：03-3270-2384（担当：鈴木、大羽、橋本）
〒100-0004　東京都千代田区大手町1-9-4　大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

資料編につきましてはこちらをご覧ください。

（1）資金繰り

・資金繰りD.I.は、▲12.3とマイナス幅がやや縮小した。
　来期の見通しについては、▲7.6となっている。

		2025/7-9	10-12	2026/1-3	4-6	7-9	10-12
資金繰りD.I.	実　績	▲ 11.5	▲ 10.0	▲ 8.9	▲ 14.0	▲ 12.3	
	見通し	▲ 7.0	▲ 5.8	▲ 5.3	▲ 6.4	▲ 12.4	▲ 7.6

（注） 前期比。資金繰りD.I.は、「好転」企業の割合−「悪化」企業の割合。季節調整値。

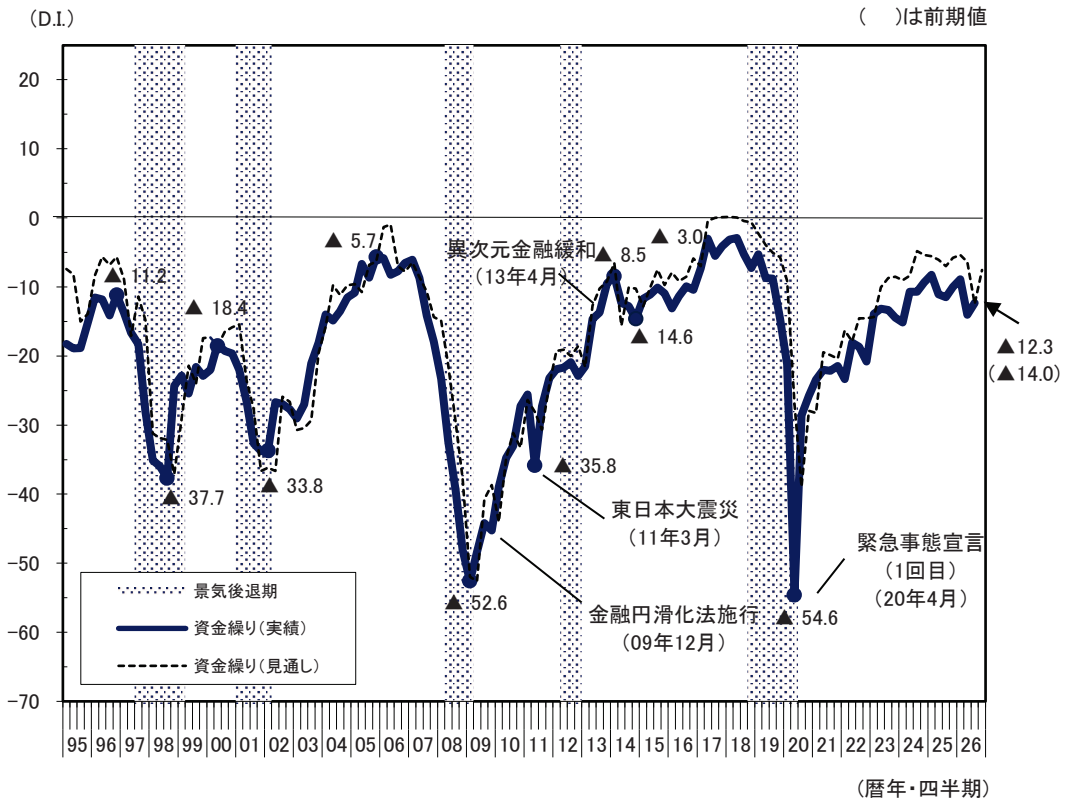
（2）借入難易感

・借入難易感D.I.は、▲6.4と横ばいとなった。
　来期の見通しについては、▲7.6となっている。

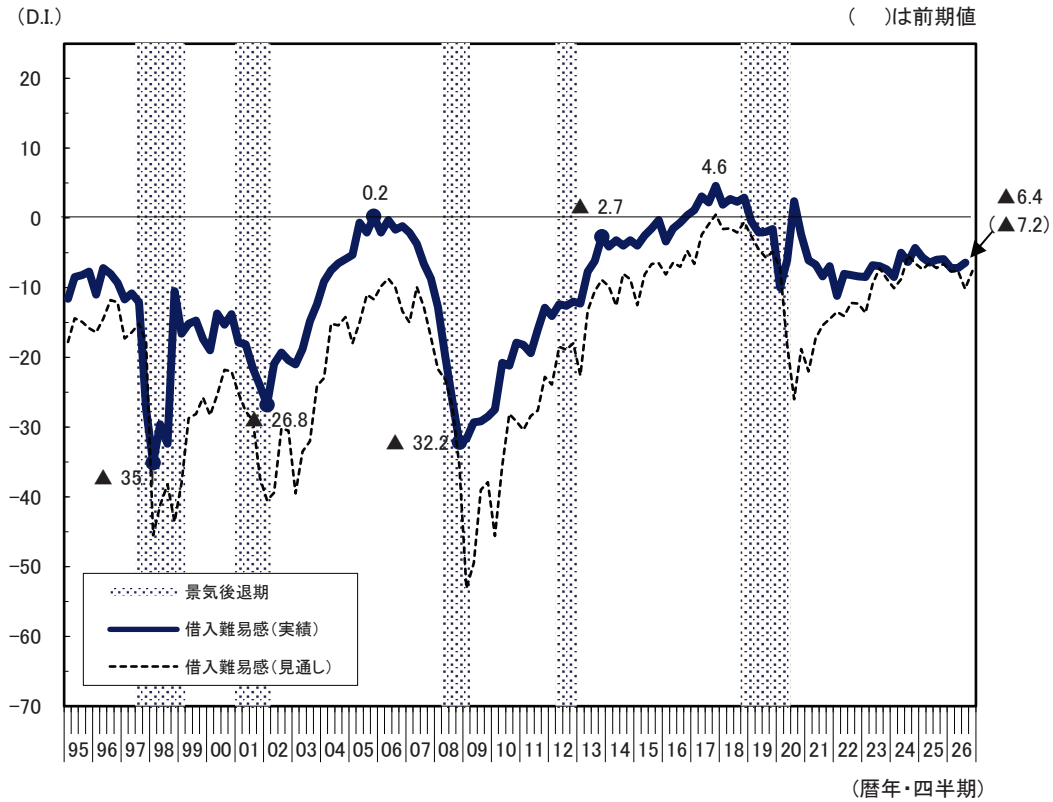
		2025/7-9	10-12	2026/1-3	4-6	7-9	10-12
借入難易感D.I.	実　績	▲ 6.0	▲ 5.9	▲ 7.2	▲ 7.2	▲ 6.4	
	見通し	▲ 7.2	▲ 6.6	▲ 7.7	▲ 7.6	▲ 10.2	▲ 7.6

（注） 前期比。借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合−「困難」企業の割合。原数値。

資金繰りD.I.（季節調整値）の推移



借入難易感D.I.の推移



（３）借入状況

・今期に借入を実施した企業の割合は、従業員規模「0-20人」及び「21人以上」ともに、やや増加した。

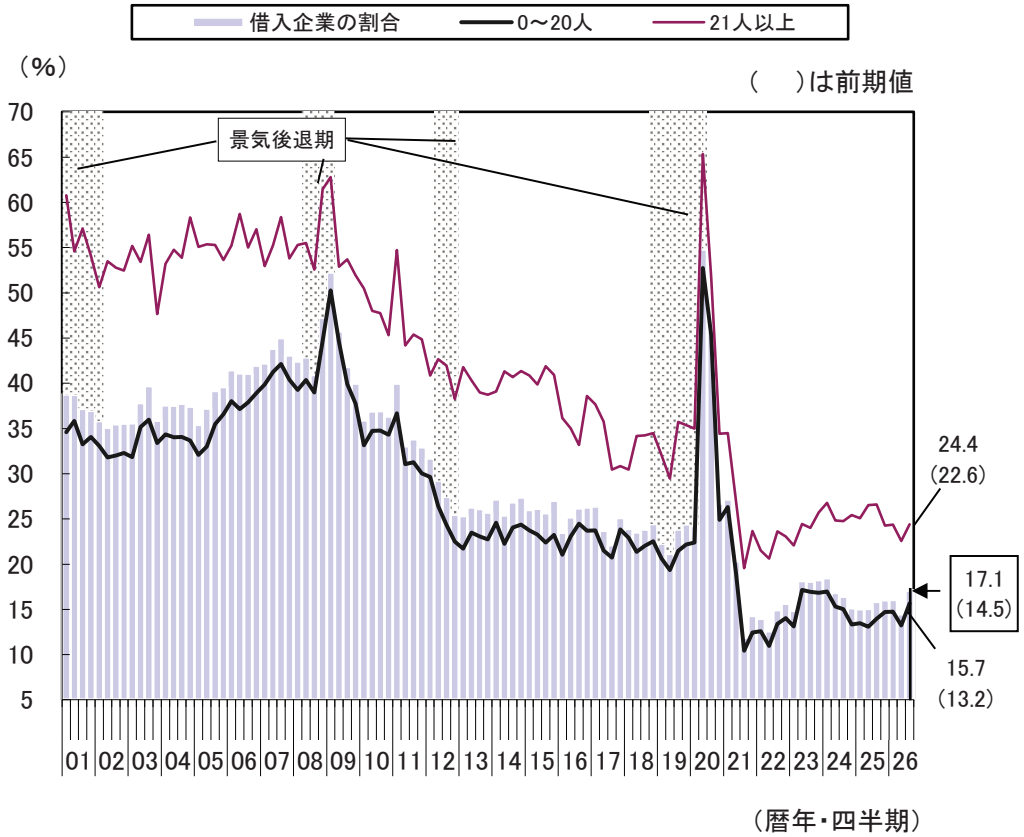
・一社あたりの借入金額別構成比は、「１千万円超～５千万円」が増加した一方で、「１千万円以下」及び「５千万円超」がやや減少した。

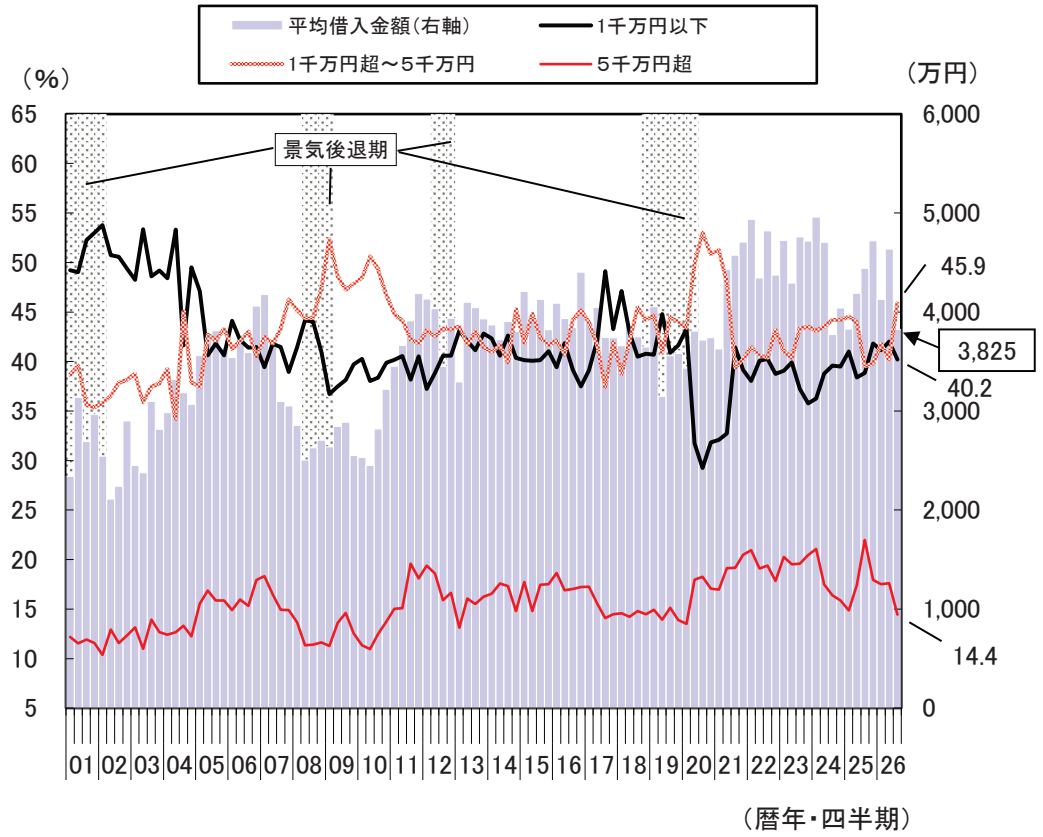
① 借入を実施した企業の割合（季節調整値）

		2025/7-9	10-12	2026/1-3	4-6	7-9
借入企業の割合		15.8	16.0	16.1	14.5	17.1
	0-20人	14.0	14.7	14.7	13.2	15.7
	21人以上	26.6	24.3	24.4	22.6	24.4

② 一社あたりの借入金額別構成比（季節調整値）

	2025/7-9	10-12	2026/1-3	4-6	7-9
1千万円以下	38.8	41.8	41.1	42.0	40.2
1千万円超～5千万円	39.5	39.8	41.8	40.2	45.9
5千万円超	22.0	17.9	17.5	17.6	14.4

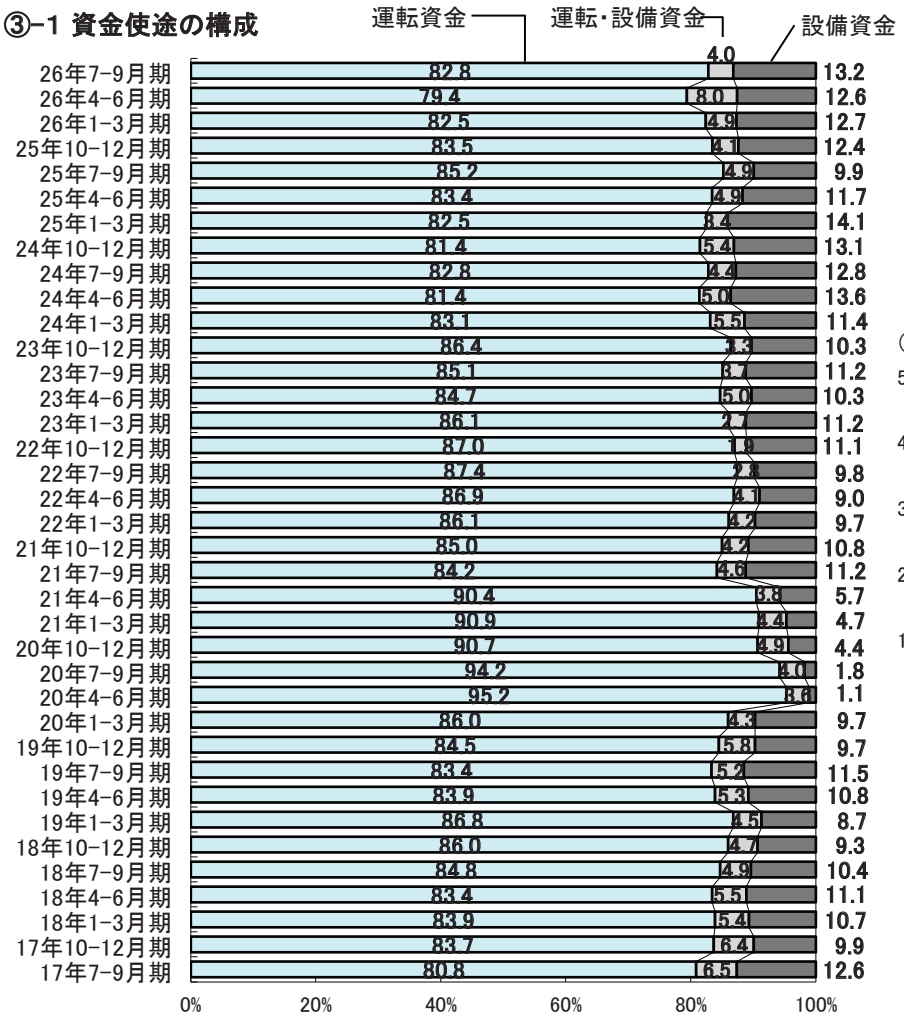




（注）「借入」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計したものである。

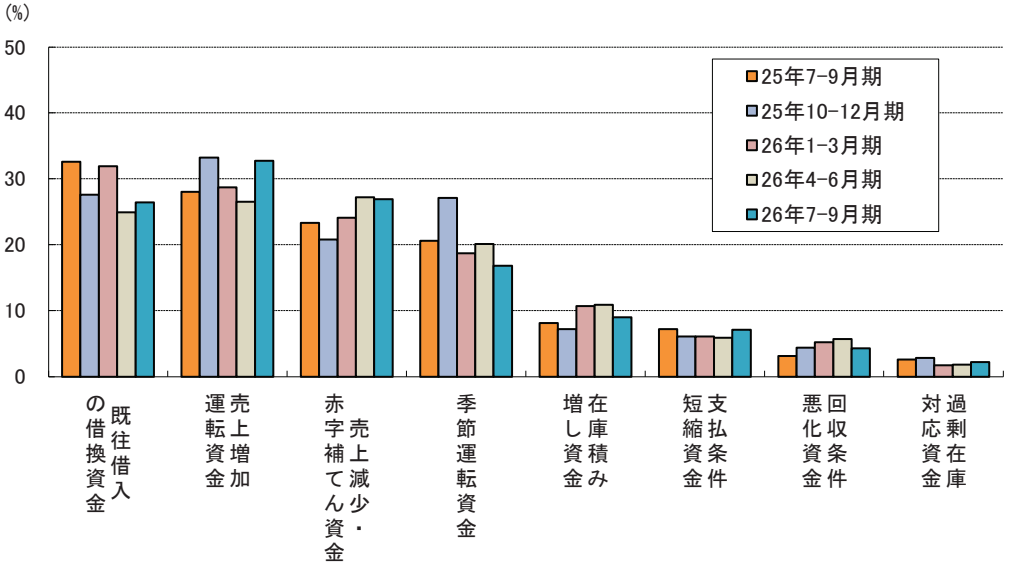
・資金使途の構成については、運転資金の割合はやや増加し、設備資金の割合は横ばいとなった。
・運転資金の内訳では、「売上増加運転資金」の割合が増加し、最も高い割合となった。

③-1 資金使途の構成



③-2 運転資金の内訳（原数値）

		既往借入の借換資金	売上増加運転資金	売上減少・赤字補てん資金	季節運転資金	在庫積み増し資金	支払条件短縮資金	回収条件悪化資金	過剰在庫対応資金
26年	7－9月期	26.4	32.7	26.9	16.8	9.0	7.1	4.3	2.2
	4－6月期	24.9	26.5	27.2	20.1	10.9	5.9	5.7	1.8
	1－3月期	31.9	28.7	24.1	18.7	10.7	6.1	5.2	1.7
25年	10－12月期	27.6	33.2	20.8	27.1	7.2	6.1	4.4	2.8
	7－9月期	32.6	28.0	23.3	20.6	8.1	7.2	3.1	2.6



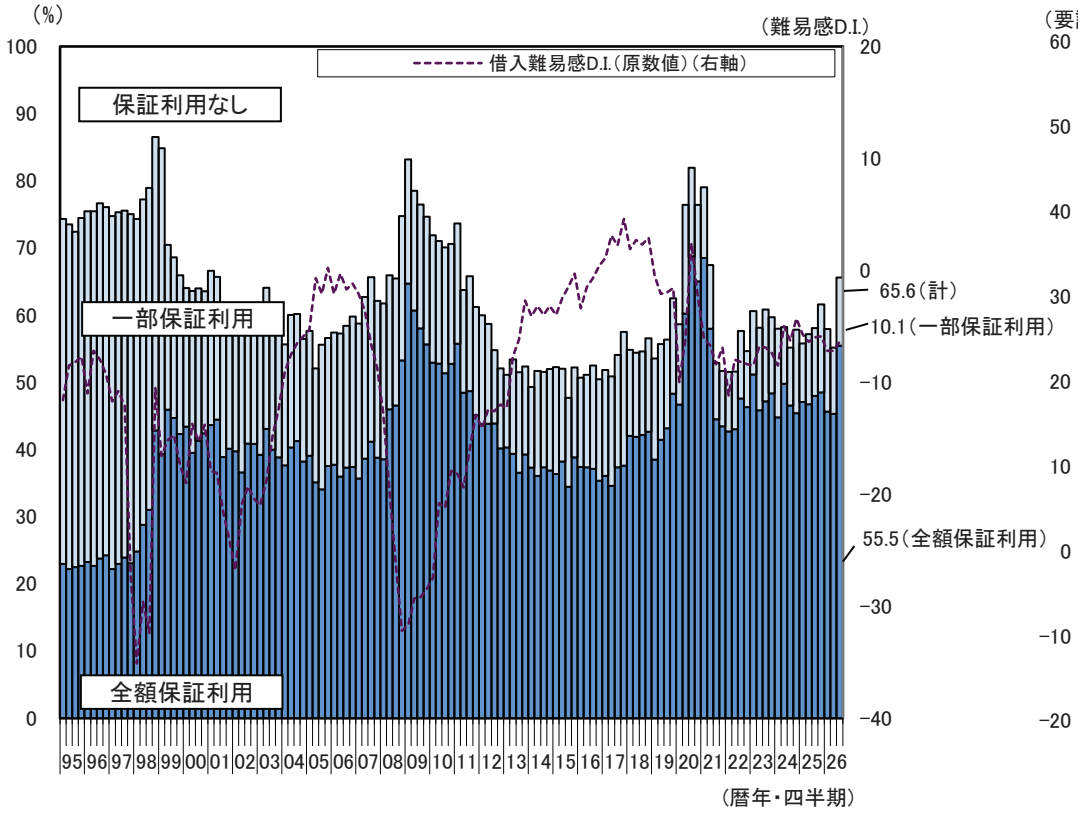
（注）1.複数回答のため、合計は100%を超える。
2.「資金使途」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計した借入金に係るものである。

（４）－１ 保証利用状況

・今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、大幅に増加した。

	2025/7-9	10-12	2026/1-3	4-6	7-9
当期に保証を利用した企業の割合	58.1	61.6	57.9	55.2	65.6
全額利用	48.0	48.5	45.6	45.3	55.5
一部利用	10.1	13.1	12.3	9.9	10.1
当期に保証利用がない企業の割合	41.9	38.4	42.1	44.8	34.4

借入企業に対する保証利用企業の割合（季節調整値）



（注）当該四半期中に新規借入を行った企業数について、「保証利用なし」、「保証付きの借入のみ（全額保証利用）」、「保証付きの借入と保証を利用しない借入を併用（一部保証利用）」の区分で集計したもの。

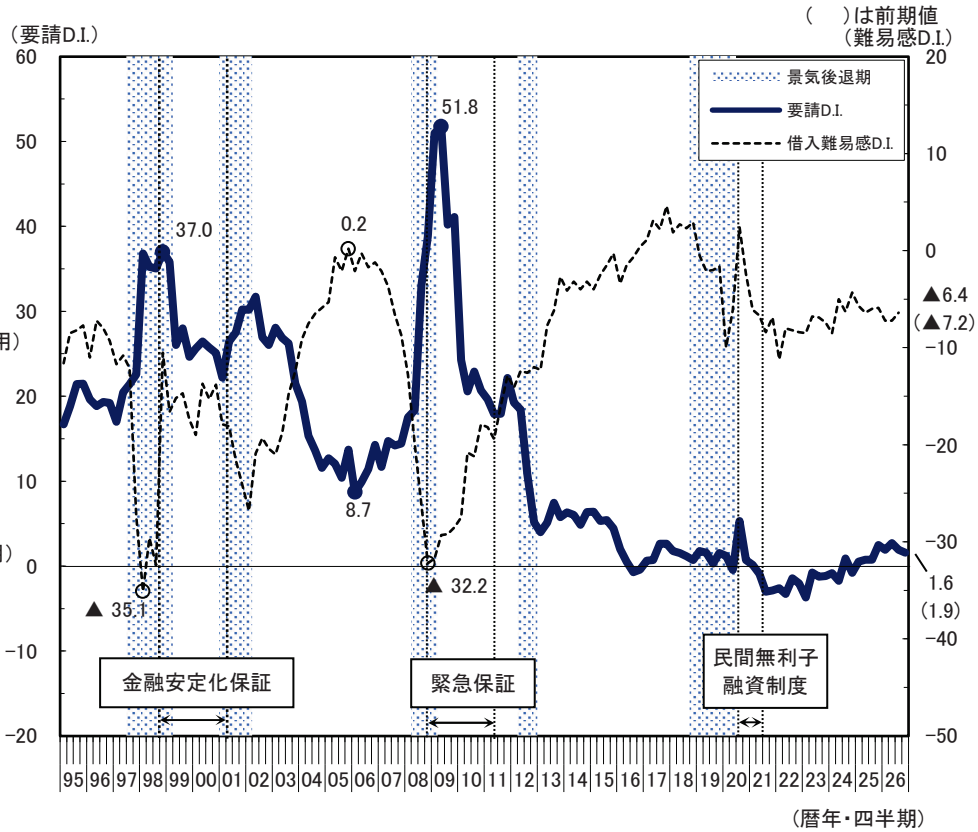
（４）－２ 金融機関からの保証利用要請

・来期（26年10～12月）における保証利用要請D.I.は、1.6と横ばいとなった。

		2025/7-9	10-12	2026/1-3	4-6	7-9	10-12
要請D.I.	見通し	0.8	2.5	1.9	2.7	1.9	1.6
借入難易感D.I.	実績	▲ 6.0	▲ 5.9	▲ 7.2	▲ 7.2	▲ 6.4	

（注）1.前期比。要請D.I.は、「強くなると思う」企業の割合−「弱くなると思う」企業の割合。季節調整値。
2.借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合−「困難」企業の割合。原数値。

金融機関からの要請D.I.（季節調整値）及び借入難易感D.I.の推移



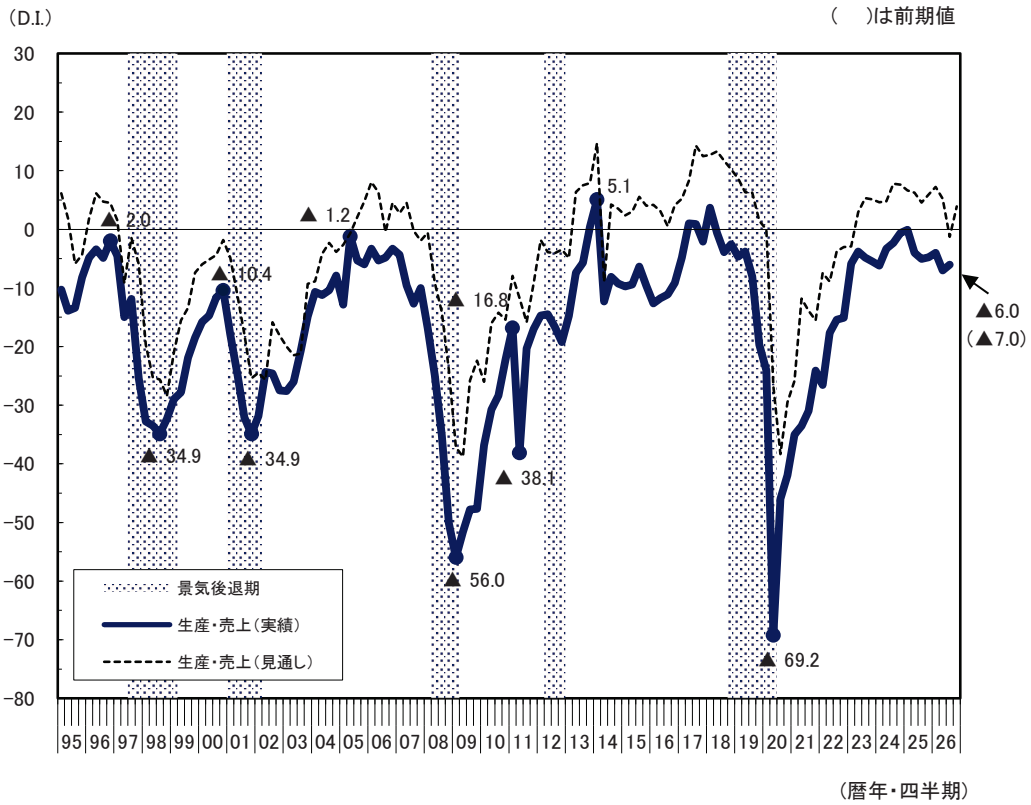
（5）生産・売上

・生産・売上D.I.は、▲6.0とマイナス幅がやや縮小した。
来期の見通しについては、3.9となっている。

		2025/7-9	10-12	2026/1-3	4-6	7-9	10-12
生産・売上D.I.	実　績	▲ 5.0	▲ 4.8	▲ 4.0	▲ 7.0	▲ 6.0	
	見通し	4.6	5.9	7.3	5.2	▲ 1.3	3.9

（注） 前期比。生産・売上D.I.は、「増加」企業の割合−「減少」企業の割合。季節調整値。

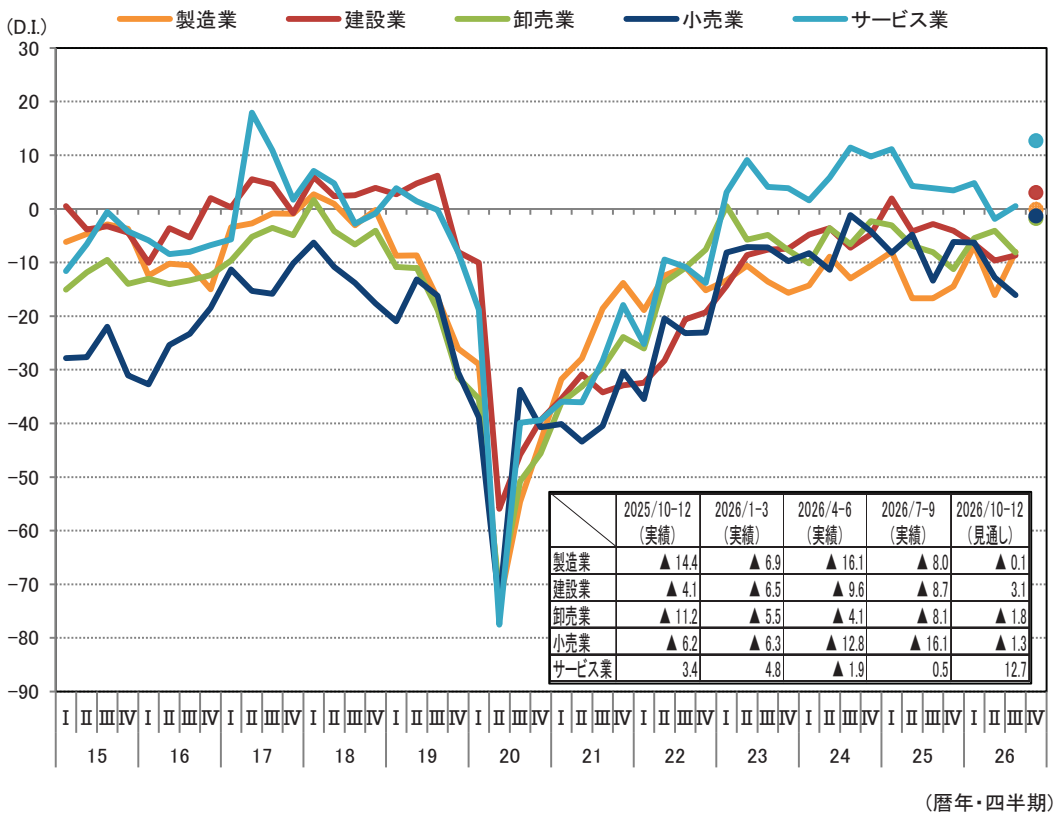
生産・売上D.I.（季節調整値）の推移



生産・売上（業種別）

・生産・売上D.I.（業種別）は、サービス業がプラスに転じ、製造業でマイナス幅が縮小、建設業で横ばいとなった一方で、卸売業及び小売業でマイナス幅がやや拡大した。

業種別生産・売上D.I.（季節調整値）の推移



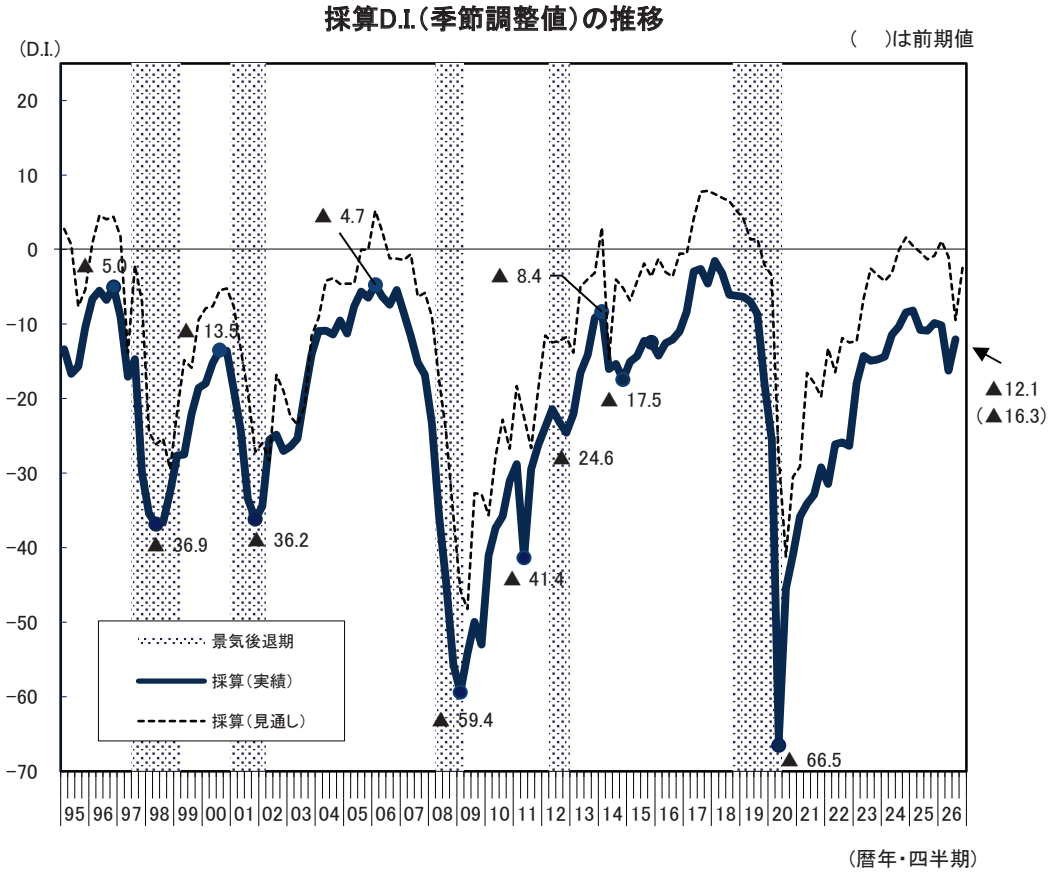
	2025/10-12（実績）	2026/1-3（実績）	2026/4-6（実績）	2026/7-9（実績）	2026/10-12（見通し）
製造業	▲ 14.4	▲ 6.9	▲ 16.1	▲ 8.0	▲ 0.1
建設業	▲ 4.1	▲ 6.5	▲ 9.6	▲ 8.7	3.1
卸売業	▲ 11.2	▲ 5.5	▲ 4.1	▲ 8.1	▲ 1.8
小売業	▲ 6.2	▲ 6.3	▲ 12.8	▲ 16.1	▲ 1.3
サービス業	3.4	4.8	▲ 1.9	0.5	12.7

（６）採算

・採算D.I.は、▲12.1とマイナス幅がやや縮小した。
来期の見通しについては、▲2.4となっている。

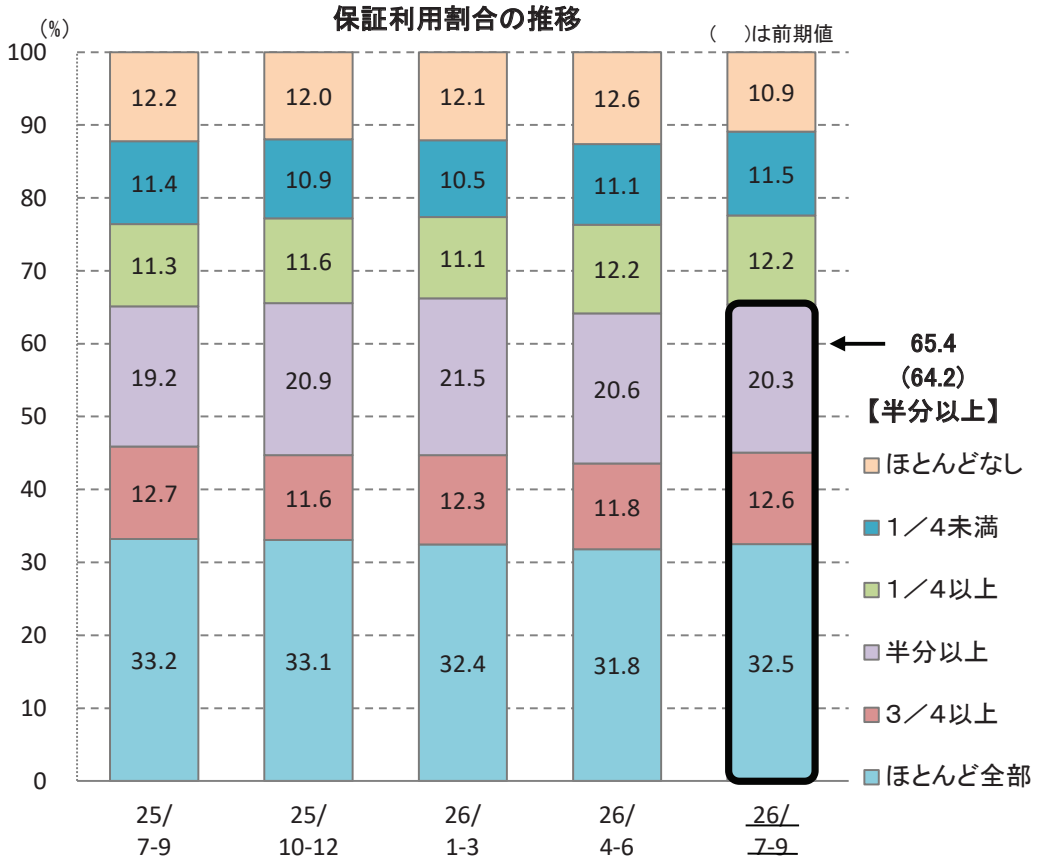
		2025/7-9	10-12	2026/1-3	4-6	7-9	10-12
採算D.I.	実　績	▲ 10.9	▲ 9.9	▲ 10.2	▲ 16.3	▲ 12.1	
	見通し	▲ 1.3	▲ 0.8	1.1	▲ 0.9	▲ 9.5	▲ 2.4

（注） 前期比。採算D.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。



（参考）保証利用割合

・借入総残高に占める保証利用の割合については、半分以上と回答した企業が65.4%となっている。

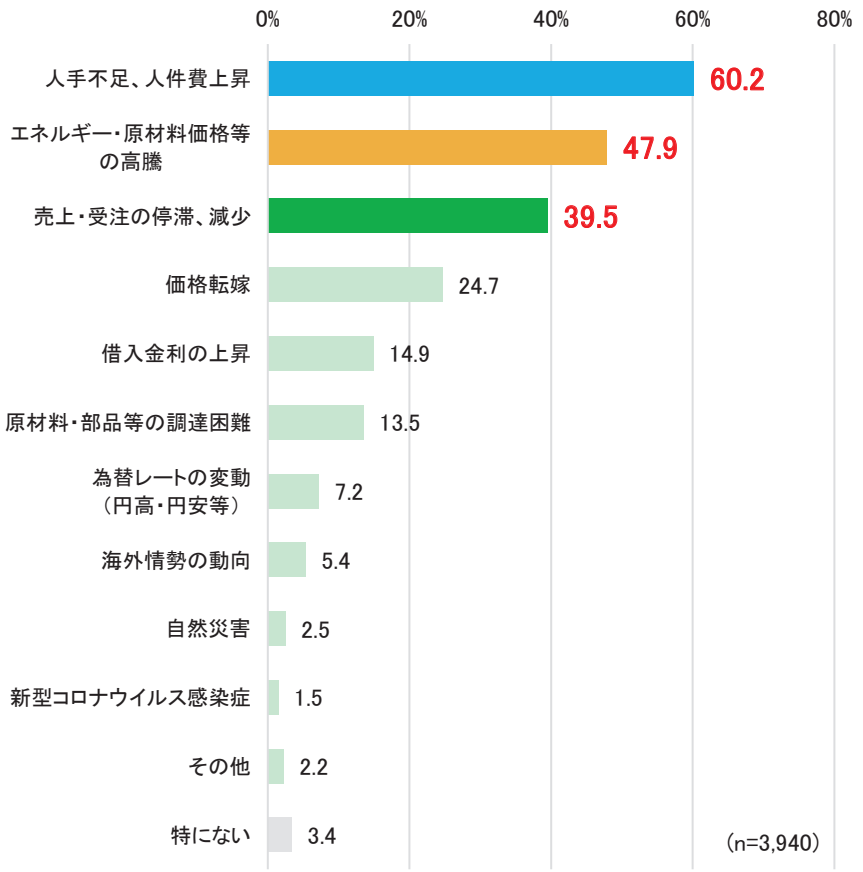


特別調査　経営環境において直面している課題及び信用保証制度の活用状況等について

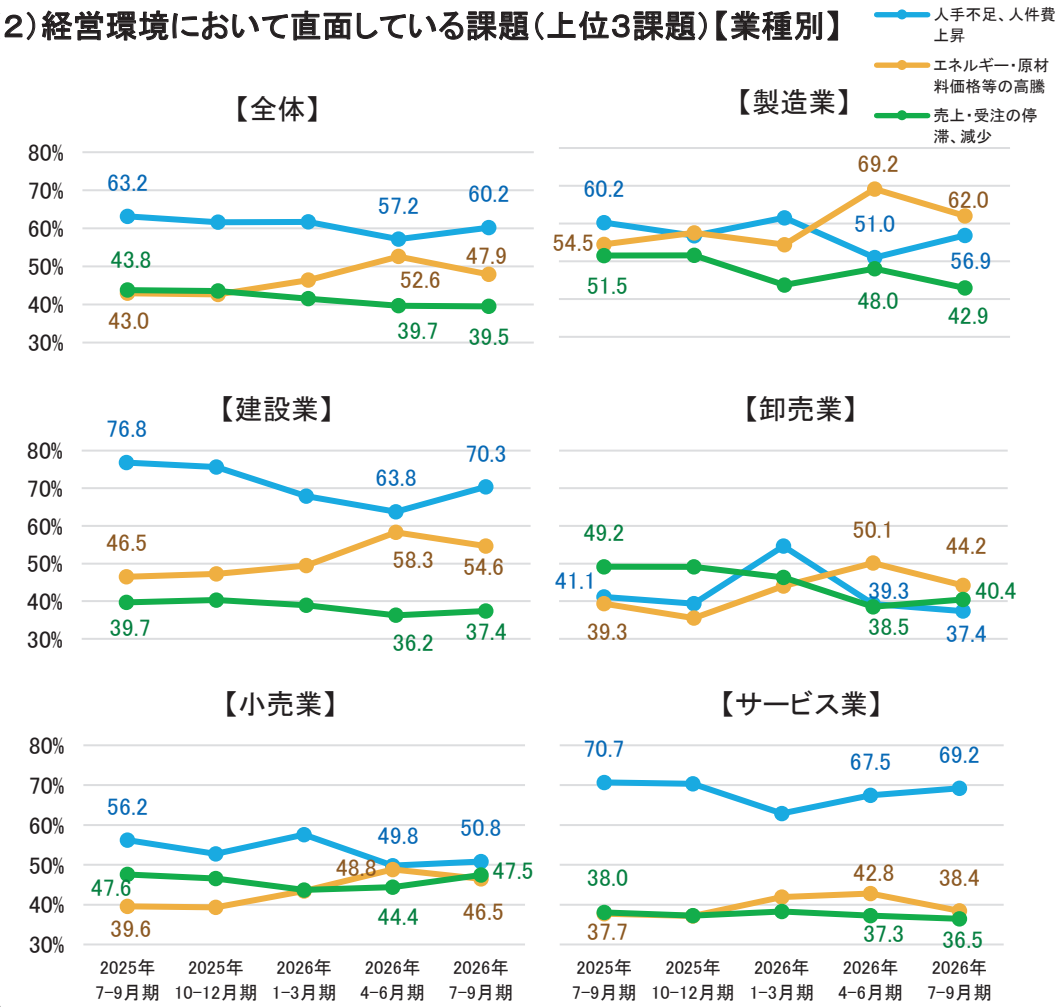
1．経営環境において直面している課題について

・2026年7-9月期の経営環境において直面している課題については、「人手不足、人件費上昇」（60.2%）が最も多く、次いで「エネルギー・原材料価格等の高騰」（47.9%）、「売上・受注の停滞、減少」（39.5%）の順となっている。
・業種別にみると、上位3課題は共通しているものの、製造業及び卸売業では「エネルギー・原材料価格等の高騰」が「人手不足、人件費上昇」を上回った。

（1）経営環境において直面している課題



（2）経営環境において直面している課題（上位3課題）【業種別】



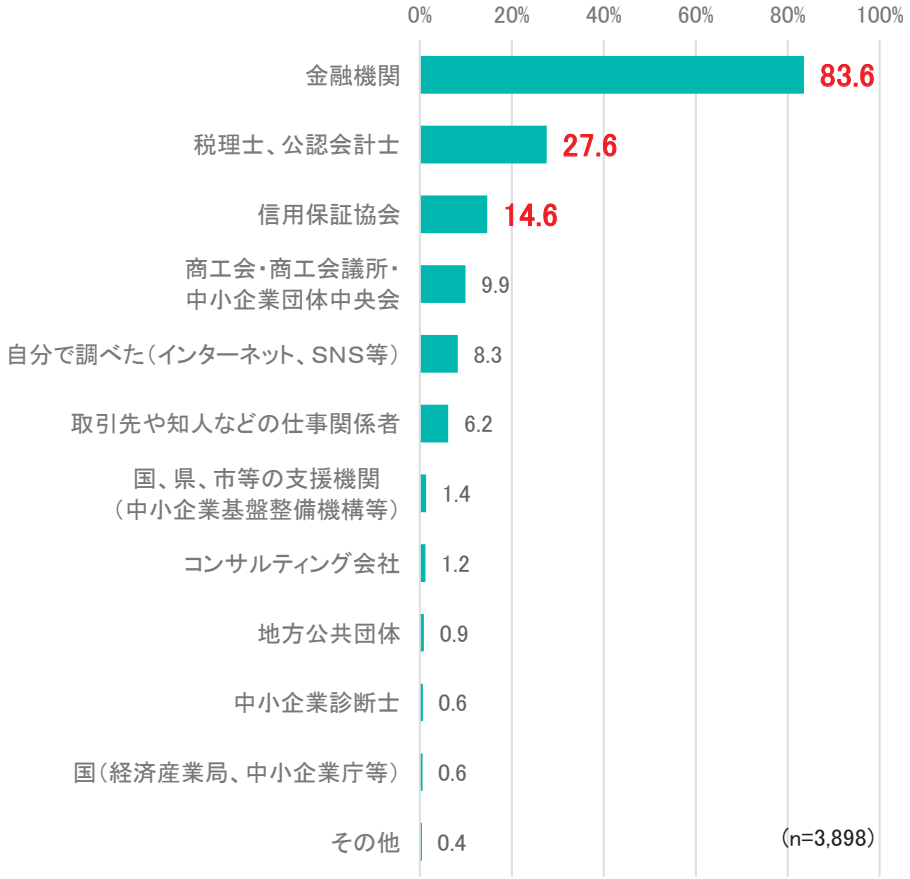
（注）（1）、（2）は3つまでの回答可のため、それぞれの合計は100%を超える。

特別調査 経営環境において直面している課題及び信用保証制度の活用状況等について

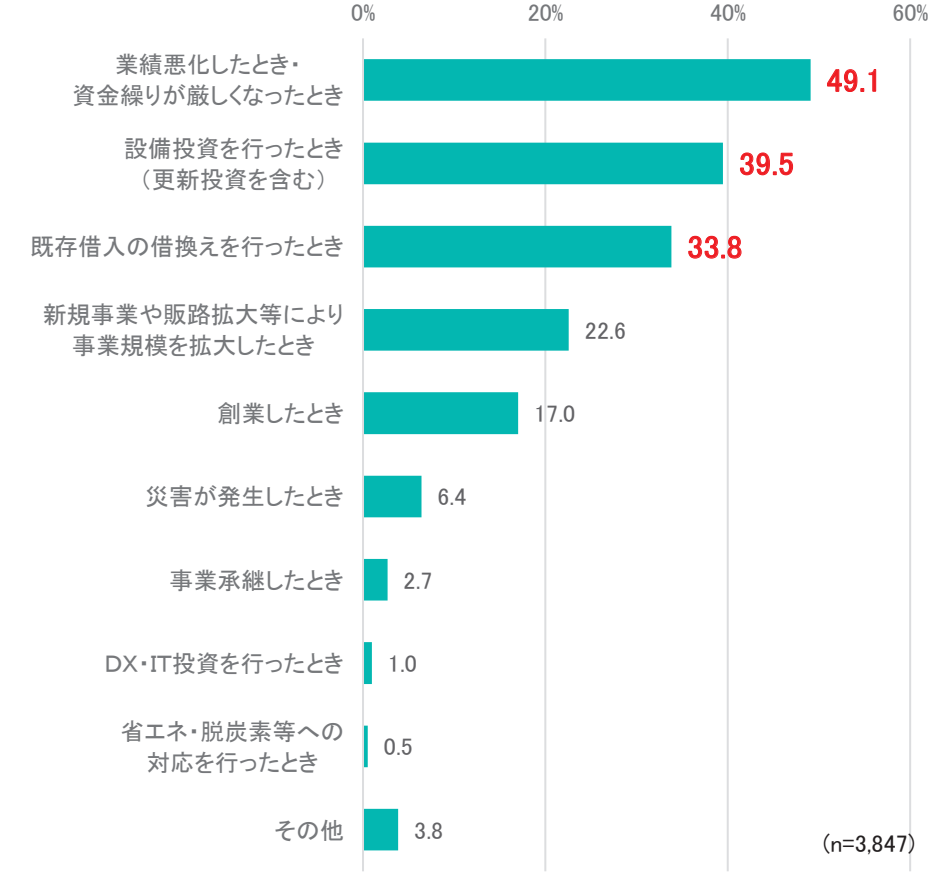
2．信用保証制度に関する情報の入手先、保証付き融資を利用した機会について

・信用保証制度に関する情報の入手先については、「金融機関」（83.6%）が最も多く、次いで「税理士、公認会計士」（27.6%）、「信用保証協会」（14.6%）の順となっている。
・保証付き融資を利用した機会については、「業績悪化したとき・資金繰りが厳しくなったとき」（49.1%）が最も多く、次いで「設備投資を行ったとき（更新投資を含む）」（39.5%）、「既存借入の借換えを行ったとき」（33.8%）の順となっている。

（1）信用保証制度に関する情報の入手先



（2）保証付き融資を利用した機会



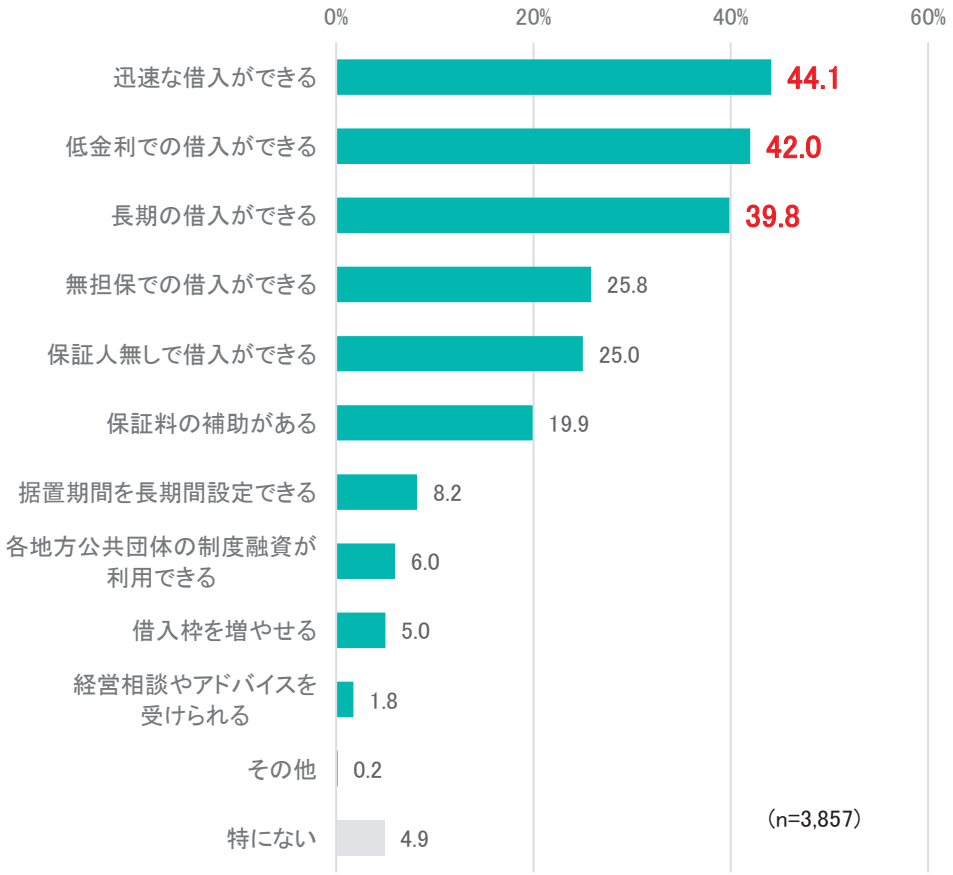
（注）（1）は3つまで、（2）はいくつでも回答可のため、それぞれの合計は100%を超える。

特別調査 経営環境において直面している課題及び信用保証制度の活用状況等について

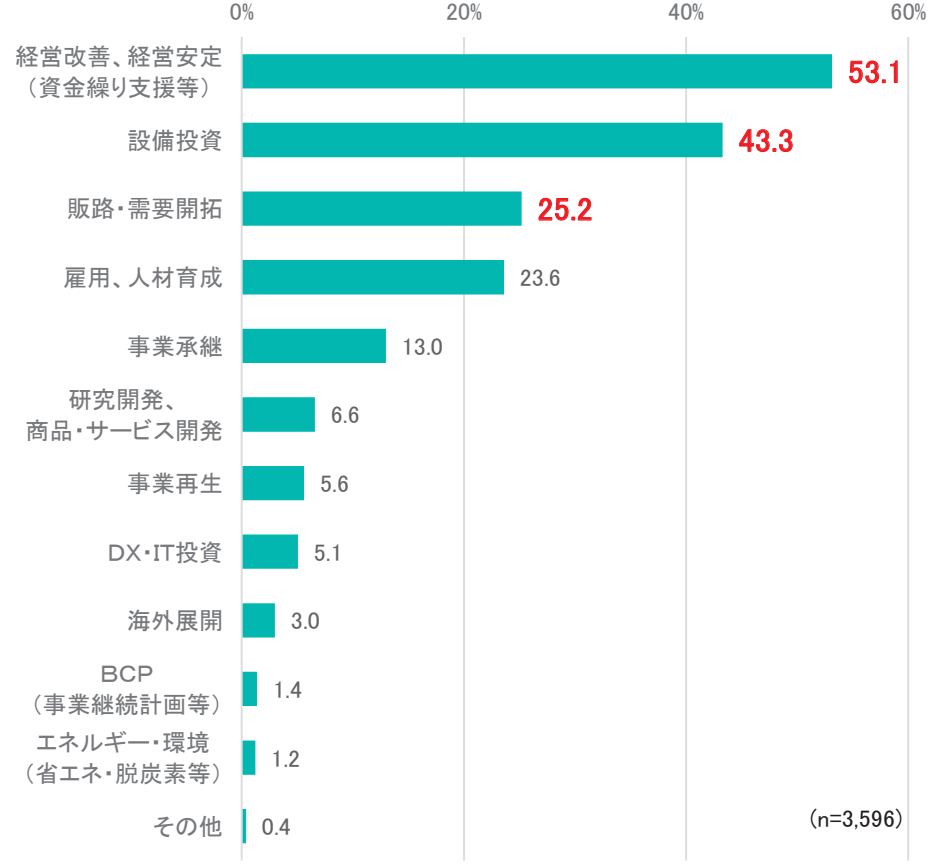
3．保証付き融資利用時に重視する点、今後利用検討したい制度融資について

・保証付き融資利用時に重視する点については、「迅速な借入ができる」（44.1%）が最も多く、次いで「低金利での借入ができる」（42.0%）、「長期の借入ができる」（39.8%）の順となっている。
・今後利用を検討したい制度融資については、「経営改善、経営安定（資金繰り支援等）」（53.1%）が最も多く、次いで「設備投資」（43.3%）、「販路・需要開拓」（25.2%）の順となっている。

（1）保証付き融資利用時に重視する点



（2）今後利用検討したい制度融資

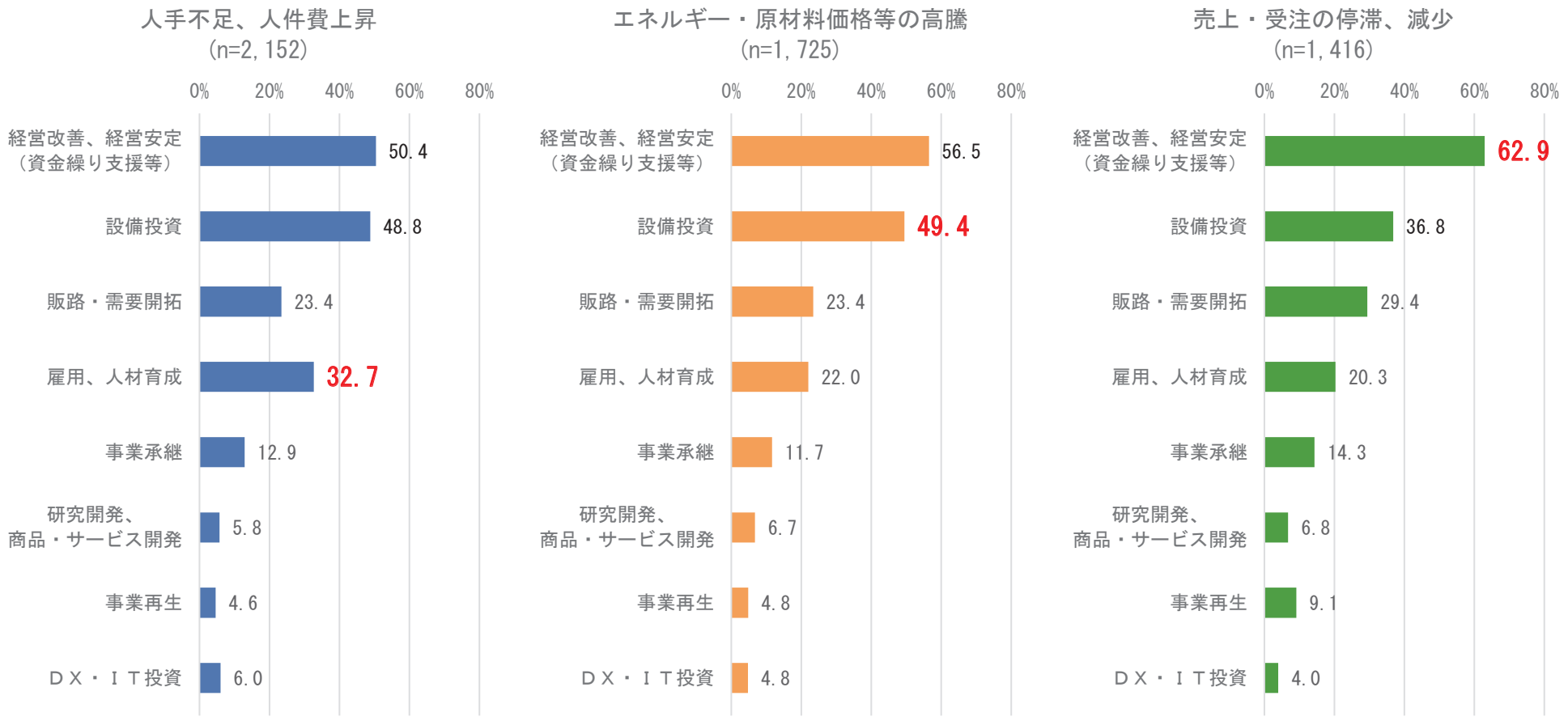


（注）（1）、（2）は3つまで回答可のため、それぞれの合計は100%を超える。

特別調査 経営環境において直面している課題及び信用保証制度の活用状況等について

４．今後利用検討したい制度融資【経営環境において直面している課題（上位３課題）別】

・直面している課題別に今後利用を検討したい制度融資をみると、いずれの課題でも「経営改善、経営安定（資金繰り支援等）」の割合が最も高く、次いで「設備投資」の順となっている。
・また、「人手不足、人件費上昇」を課題とする企業では、「雇用、人材育成」（32.7%）が相対的に高くなっている。



（注）各課題項目を選択した企業数を分母として算出。制度融資は3つまで回答可のため、企業が選択した課題ごとの合計は100%を超える。
なお、図表には回答割合の高かった制度融資を表示している。